

注目されるDISHのSling TVサービス

米国に居を構え、米国のデジタル放送とインターネットTVの動向をウォッチし続けているテッド若山氏。今月のテーマは「注目されるDISHのSling TVサービス」である。

テッド若山氏は、米国の調査会社ストラテジック社の調査担当副社長を経て、1987年にNSI Research社を設立。情報・通信・放送技術分野のマーケット調査とコンサルティング・サービスを提供している。さらに、マンスリーレポート「The Compass」を出版。サンプル購読希望者はcompass@nsirinc.comまで。

衛星放送事業者のDISH NetworkがCESで発表したOTTベースの多チャンネルサービス「Sling TV」が大きな注目を得ている。Sling TVはインターネットを使い、ESPN等の十数の多チャンネルネットワークを配信する。月額\$20と安いのが、200近いチャンネルがある既存の多チャンネルサービスとはコンテンツの規模が大きく違う。Sling TVと契約しているのは、Disney、Time Warner、Scripps系のチャンネルで、NBCUniversal、Fox、Viacom等のチャンネルはない。また、地上波の再送信も含まれないので、ABC、NBC、CBS、Foxのチャンネルはない。この他、Disney XD等が含まれる「Kids Extra」、Bloomberg TV等が含まれる「News & Info Extra」の2つのオプションなパッケージがそれぞれ\$5で提供される。

プログラムは通常の多チャンネルサービスと同様にリニアで配信される。オンデマンドでの配信もあるが、すべての番組にキャッチアップできるわけではない。DVRの機能はないので、見逃した番組はSling TVのサービスでは視聴できない可能性がある。インターネットで配信されているので、モバイル端末、ゲーム機、Roku等さまざまなデバイス（それに場所）で視聴できるメリットはあるが、制限の多いサービスでもある。

なぜ、そのようなサービスが大きな話題になっているのか？ それは、既存の多チャンネルサービスが加入者を失っ

ており、Sling TVがその対応策の1つであるからだ。多チャンネルサービスの加入者が減っている大きな理由の1つに、サービス料金の高騰がある。FCCが行っている多チャンネルサービスの価格調査によると、多チャンネルサービスの標準的なパッケージ（地上波再送信と基本的な多チャンネルネットワークで構成されるExpanded Basic）は、1995年では\$22.35であったのが、2013年では\$64.41になっている。1995年から2013年の年平均値上げ率は6.1%である。

この間、チャンネル数は大きく増えた。1995年のExpanded Basicの平均チャンネル数は44チャンネルであったのが、2013年には159.6チャンネルに増えている。チャンネル数の増加は多チャンネルサービスの加入者を増やすことに大きく貢献した。しかし、見たいチャンネルを探すことができる限度を超えており、チャンネル数増加の価値は薄れ、値上げだけが目立ち始めている。

Sling TVはOTTという最新の技術を使うが、サービスとしては基本に戻っている。オプション・パッケージを含めたSling TVは月額\$30で、30チャンネル程度になり、1995年の多チャンネルサービスと同じレベルである。Sling TVで最も魅力のあるチャンネルは、スポーツ専門のESPNである。多チャンネルサービス事業者が支払っているESPNの契約料金は、1加入者あたり月\$6を超え、最も高価なチャンネルである。Sling TVのコンテンツのコストの50%はESPNということになる。視聴者がSling TVに魅力を感じるかは、ESPNを見たいかで決まる。Sling TVは、現在の多チャンネルサービスのようにチャンネル数を増やすことで幅広い人たちにアピールをするのではなく、限定した層を狙っている。

DISHが狙っているSling TVの加入者層は多チャンネルサービスにまだ加入したことがないスポーツ好きの若者であり、Sling TVが多チャンネルサービスへの入門になることを期待している。Sling TVが成功することでチャンネル数を増やすことを再優先してきた多チャンネルサービスの方向が変わっていくかも知れない。

